

令和6年度

全国学力・学習状況調査における山口市の結果概要について

---

山口市教育委員会

## 1 調査の概要

### (1)目的

- ・義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証して、その改善を図る。
- ・学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ・そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2)調査期日 令和6年4月18日(木)

(3)調査対象 小学校第6学年児童  
中学校第3学年生徒

### (4)調査の内容

#### I 教科に関する調査(小学校:国語、算数 中学校:国語、数学)

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

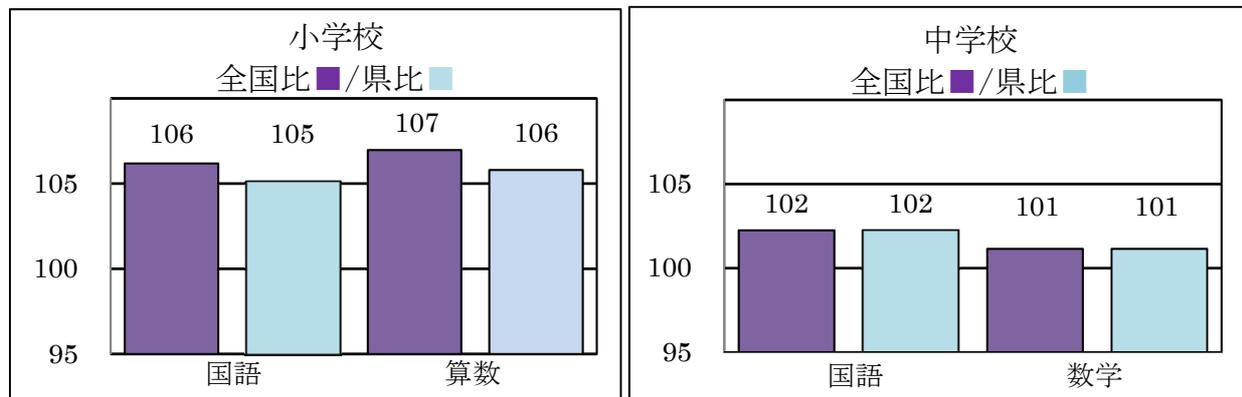
#### II 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

- A 児童生徒に対する調査(児童生徒質問紙)
- I 学校に対する調査(学校質問紙)

## 2 教科に関する結果

### (1) 山口市と全国・県の各教科平均正答率の比較

全国・県の平均正答率を100として、各教科における本市の結果(指標)をグラフで表しています。



\*小数点以下は非表示

### (2) 山口市の現状と今後に向けた方向性

本市の小学校・中学校ともに、全ての教科において全国・県平均正答率を上回る結果となりました。また、学習指導要領に示されている各教科の内容についても、ほぼ全ての項目において全国・県平均正答率を上回りました。

しかし、課題のある問題が見られるほか、小学校と中学校の平均正答率に差異が見られました。

そこで、本市教育委員会といたしましては、各学校で課題の見られた問題に取り組むための支援をするとともに、今年度より全面実施している小中一貫教育の中で、各中学校区が一体となった授業改善に向けた研修機会の提供を行ってまいります。

### (3) 各教科の調査問題における傾向と学びのポイント

次ページより、以下に掲げる表記を用いて、各教科の調査問題における傾向と学びのポイントについて詳しく説明しています。

各教科の調査問題<sup>※</sup>における解答の結果について、本市における傾向をまとめています。

◎…正答率が高かった問題や、経年比較による課題の解決が見られる問題

▼…本市の正答率が50%以下、または全国平均正答率を下回る等、課題の見られる問題

※各教科の傾向の後にある(□)の一などは、問題番号です。

また、解答結果から見られる学びのポイントについて、次の3点でまとめています。



…解答結果の考察



…学びのポイント

※調査問題の詳細や全国の調査結果、授業アイデア集などは、国立教育政策研究所の「教育課程研究センター全国学力・学習状況調査」内、「令和6年度調査」の以下のリンクから閲覧することができます。( <https://www.nier.go.jp/kaihatsu/zenkokugakuryoku.html> )



◎数量の関係を、□を用いた式に表すこと。(1の(2))

◎直方体の見取図について理解し、かくこと。(3の(1))

▼球の直径の長さや立方体の一辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表すこと。(3の(3))

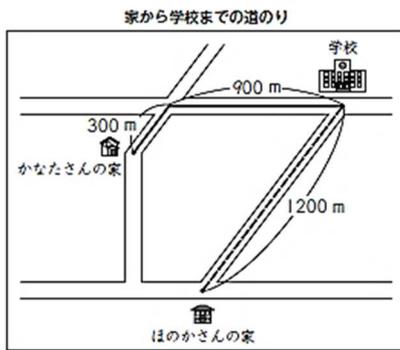
▼道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉と数を用いて記述すること。(4の(3))

<解答結果から見られる学びのポイント>

—算数4(3) 家から学校までの道のりが等しく、かかった時間が異なる二人の速さについて、どちらが速いかを判断し、そのわけを書く—

4

(3) かなたさんとほのかさんは、それぞれの家から学校まで歩いて行きました。



家から学校までの道のりは、上の図のとおりです。  
 家から学校まで、かなたさんは20分間、ほのかさんは24分間かかりました。  
 それぞれの家から学校までの歩く速さを比べると、かなたさんとほのかさんのどちらが速いですか。  
 下の 1 と 2 から選んで、その番号を書きましょう。  
 また、その番号を選んだわけを、言葉や数を使って書きましょう。

1 かなたさん  
 2 ほのかさん

正答例

1  
 かなたさんの家から学校までの道のりは、 $900 + 300 = 1200$ で、1200mです。かなたさんとほのかさんが歩いた道のりは1200mで同じです。かかった時間は、かなたさんのほうが短いです。道のりが同じとき、時間が短いほど速さが速いから、かなたさんのほうが速いです。



二人の歩く道のりが同じであることについては、概ね理解できています。一方、道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述することに課題が見られました。



道のりが等しく、かかった時間が異なる二人の速さについては、「かかった時間」に着目すると、速さを計算で求めなくても、どちらが速いかを判断することができます。授業の場面においては、50m走を始めとした児童の身近な事例を取り上げ、道のりが等しい場合には時間が短いほど速さが速いということに、児童が気付くことができるような学習活動を展開することが大切です。また、時間を用いた場合と速さを計算で求めた場合とを比較し、2つの考え方について話し合うことで、場面に応じた速さの比べ方についての理解を深めることにつなげることができそうです。

- ◎具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。(2)の二)
- ◎目的や意図に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすること。(3)の一)
- ▼文章と図を結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈すること。(2)の一)
- ▼目的に応じて、必要な情報に着目して要約する。(2)の四)

<解答結果から見られる学びのポイント>

— 国語2の一 本文中の図の役割を説明したものとして適切なものを選択する —



- 4 葉の形を表す言葉の中では厚み方向の形容が限定的であることの根拠を示す役割。
  - 3 葉の形を表す言葉を二つのグループに分けるやり方が複数あることを示す役割。
  - 2 実際の葉の形とそれを表す言葉とを結び付けて捉えられるようにする役割。
  - 1 実際の葉の形をたくさん思い浮かべることができるように補助する役割。
- 「図 さまざまな形の葉」の本文中での役割を説明したものとして適切なものを、次の1から4までの中から二つ選びなさい。

(園池公毅『植物の形には意味がある』による)  
 —紙面の都合上、本文は省略—

**正答例** 1, 2両方を解答しているもの

多くの生徒が、1もしくは2のどちらかを選ぶことはできていました。一方で、両方を選ぶことのできた生徒は少なく、図の役割を十分に捉えることができていないという課題が見られました。

図表や写真などを含む説明的な文章を読む際には、文章と図表や写真などを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈することが大切です。

図表や写真には、読み手が、文章に書かれている内容を具体的に捉えることができるようにする役割があります。筆者の伝えたい内容をより正確に読み取るために、示されている図表や写真などが、文章のどの部分と関連しているのかを確認する活動を取り入れることが大切です。

また、図表がある場合と無い場合を比較し、考えたことを説明し合う活動を取り入れることで、筆者が図表などを用いた意図を考えることができるように指導することも有効です。

- ◎問題場面における考察の対象を明確に捉え、正の数と負の数の加法ができること。(6の(1))
- ◎二つのグラフにおけるy軸との交点について、事象に即して解釈すること。(8の(1))
- ▼事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明すること。(8の(2))
- ▼筋道を立てて考え、証明すること。(9の(1))

<解答結果から見られる学びのポイント>

ー数学8の(2) 18Lの灯油を使いきるまでの「強」の場合と「弱」の場合のストーブの使用時間の違いがおよそ何時間になるかを求める方法を、式やグラフを用いて説明するー

8 第一中学校の文化祭では、会場の体育館を暖めるために、灯油を燃料とする大型のストーブを設置します。文化祭当日は、体育館を6時間使用します。文化祭の実行委員の結衣さんは、18Lの灯油が入ったストーブの使用計画を立てることになりました。ストーブの説明書には、次の情報が書かれています。

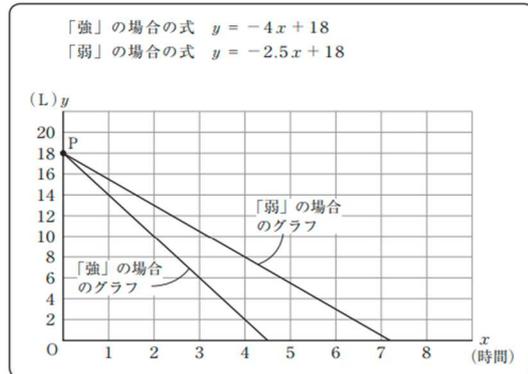
説明書の情報

ストーブの設定	強	弱
1時間あたりの灯油使用量(L)	4.0	2.5

結衣さんは、ストーブを6時間使用して、18Lの灯油をちょうど使い切るように、「強」と「弱」の設定の組み合わせを考えることにしました。そのために、18Lの灯油が入ったストーブの「強」の場合と「弱」の場合について、ストーブの使用時間と灯油の残量の関係調べることになりました。

そこで、結衣さんは、説明書の情報の1時間あたりの灯油使用量は常に一定であるとし、ストーブを使用し始めてからx時間経過したときの灯油の残量をyLとして、「強」の場合と「弱」の場合のxとyの関係それぞれ  $y = 18 - 4x$ 、 $y = 18 - 2.5x$  と表しました。そして、この2つの式をそれぞれ  $y = -4x + 18$ 、 $y = -2.5x + 18$  と表し直し、次のページのようなグラフをかきました。

ストーブの使用時間と灯油の残量



(2) 前ページのストーブの使用時間と灯油の残量から、ストーブを使用し始めてから18Lの灯油を使い切るまでの「強」の場合と「弱」の場合の使用時間の違いがおよそ何時間になるかを考えます。下のア、イのどちらかを選び、それを用いて「強」の場合と「弱」の場合のストーブの使用時間の違いがおよそ何時間になるかを求める方法を説明しなさい。ア、イのどちらを選んで説明してもかまいません。また、実際に何時間かを求める必要はありません。

ア 「強」の場合の式  $y = -4x + 18$  と「弱」の場合の式  $y = -2.5x + 18$

イ 「強」の場合のグラフと「弱」の場合のグラフ

正答例

(アを選択した場合)

・「強」と「弱」の場合の式について、それぞれの式に  $y=0$  を代入し、xの値の差を求める。

(イを選択した場合)

・「強」と「弱」の場合のグラフについて、yの値が0のときのxの値の差を求める。

・「強」と「弱」の場合のグラフについて、y座標が0のときの2点間の距離を読み取る。



アを選択して、 $y=0$ を代入したときのxの値の差に着目するとよいことは理解できていました。一方で、 $y=0$ が灯油を使い切った時間を表していることへの理解に課題が見られました。

また、イを選択して、y座標が0のときの2点間の距離に着目するとよいことは理解できていました。一方で、「y座標が0」や「2点間の距離」といった適切な言葉を使って説明することに課題が見られました。



日常生活や社会の事象の中には、関数関係となっているものが数多くあります。身近にある関数関係に着目し、その関係を式やグラフで表すなどして問題解決に取り組み、問題解決の過程を振り返ることで、関数を活用することの良さを実感することができるよう学習を行うことが大切です。また、日々の学習では、指示語や曖昧な表現を使うのではなく、数学的な表現を用いて説明する活動を通して問題解決を図っていくことが大切です。

### 3 生活習慣や学習環境等の結果

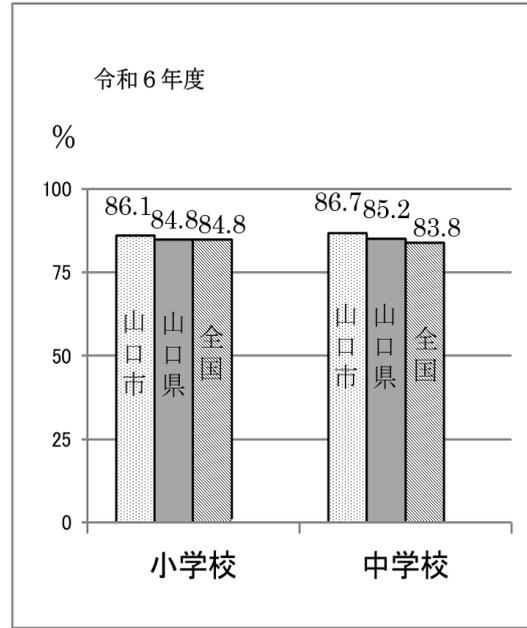
◎…望ましい状況 ▼…課題の見られる状況

#### ◎学校への満足度について

「学校に行くのは楽しいと思いますか」という問いに、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答している児童・生徒の割合は、小・中学校ともに全国・県平均を上回っています。

教職員や家庭、地域が一体となり、子どもたち一人ひとりのよさや可能性を見つけ、価値付けてきたことで、子どもたちが「明日も学校に行きたい」と感じる魅力ある学校となってきたと捉えています。

教育委員会では、今後も、小中一貫教育において、仲間との対話や協働による授業を大切に、子どもたちが達成感や学ぶ楽しさを味わうとともに、地域と連携・協働した特色ある教育活動を行うことで、自己肯定感や自己有用感などを今以上に感じることで、魅力ある学校づくりを一層推進してまいります。

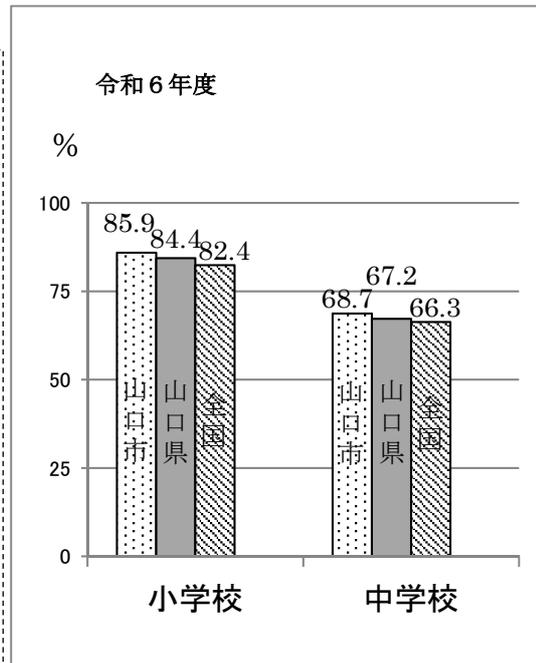


#### ◎将来の夢や目標について

「将来の夢や目標をもっていますか」という問いに、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答している児童・生徒の割合は、小・中学校ともに全国・県平均を上回っています。

同調査の別設問である「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」という問いにおいても、小・中学校ともに全国・県平均を上回りました。このことは、子どもたちが、学校行事をはじめとした多様な場面で地域の方と関わったり、地域の課題解決に向けた熟議に主体的に参画したりすることで、地域の一員である自覚や地域に貢献したいという意欲を高め、その結果、将来の夢や目標をもつことにつながったからではないかと考えています。

教育委員会では、今後も、子どもたちが身近な大人の生き様に触れる機会を確保し、将来の夢や目標をもつきっかけにすることができるようにしてまいります。

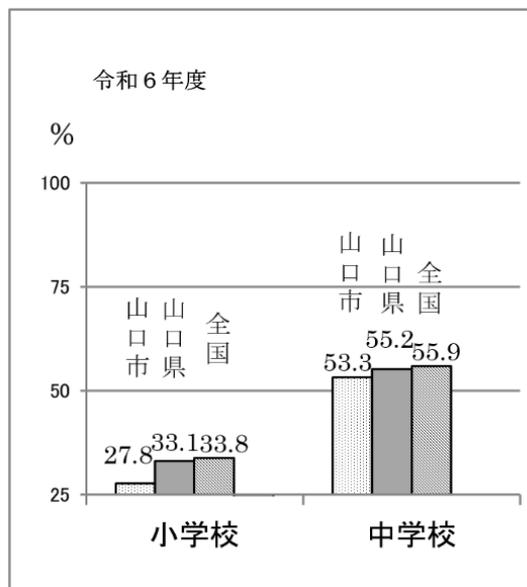


### ▼携帯電話やスマートフォンの利用時間について

「平日どれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをするか(学習やゲームの時間は除く)」という問いに、「2時間以上」と回答している児童・生徒の割合は、小学校では約3割、中学校では約半数を占めています。

全国・県平均との比較において、数値的課題は顕著ではないものの、一定数の子どもが2時間以上スマートフォン等を利用していることは、本市においても現代的課題として認識しています。小・中学校では、現状の改善に向けて、メディアコントロール力を育む取組を行っているところですが、今後、ネット依存や健康被害についての学習を一層充実させ、子どものセルフマネジメント力を高めていく必要があると捉えています。

教育委員会では、複数の課で連携し、ICT端末等の適正な使用について学校と家庭が一体となって取り組むことができるように支援してまいります。

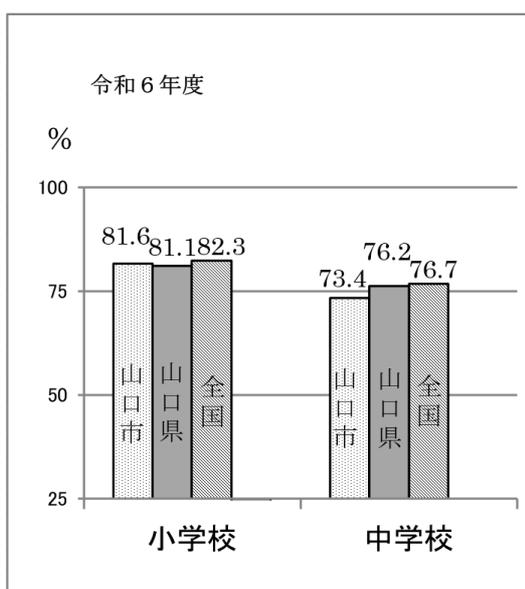


### ▼学びを生かした健康的な生活について

「健康に過ごすために、授業で学習したことや保健室の先生などから教えられたことを、普段の生活に役立てていますか」という問いに、「している」「どちらかといえば、している」と回答している児童・生徒の割合は、小学校は、県平均を上回っているものの、全国平均を下回る結果となり、中学校は、全国・県平均ともに下回る結果となっています。

各学校においては、各教科の授業、給食における食育、学校保健安全委員会の開催を始め、子どもが健康に関する知識を得る機会を十分に確保し、一定の成果を上げているところです。一方、小学校から中学校にかけて伸び悩んでいることから、学んだことと自分自身の健康とをつなげることが不十分であることが考えられます。

教育委員会では、子ども自身が課題を自分事として捉える熟議等を活用することや、普段の生活を振り返る授業づくりを進めることを学校に働きかけてまいります。さらに、課内で連携し、学校、家庭、地域が一体となった、健全な食習慣等の基本的な生活習慣の確立や体力の向上に取り組んでまいります。



## 4 各学校における特色ある取組事例

### 【地域との連携・協働】

- A小学校では、地域の方々で行った活動や熟議の内容を教科の学びと関連させることで、子どもたちは学ぶ意味を見出し、主体的に学んでいます。また、総合的な学習の時間において、やってみいたいことを教職員や保護者、地域の方々に発表する機会が何度もあり、自分の意見や願いを具体的に、わかりやすく伝えることを通して表現力を伸ばしてきています。
- B中学校では、地域の方々に授業に参加していただき、生徒が頑張っている様子をしっかりと価値付けてもらうことで自信をつけ、学習への意欲を高めています。

### 【小中一貫教育】

- C中学校区では、中学校区で「育みたい資質・能力の重点」を児童・生徒にもわかりやすい言葉で表し、その言葉を学校行事はもとより授業改善にも積極的に用いることで児童・生徒、教職員、家庭、地域が一体となって小中一貫教育に取り組んでいます。

### 【校内研修の充実】

- D中学校では、全校体制でICTの効果的な活用をめざした県指定の委託事業に取り組み、個別最適な学びや深い学びにつなげています。
- E小学校では、「特別支援教育」についての研修を重点的に行うなど、一人ひとりを大切に授業が展開されています。このような校内研修を充実させることが授業改善にもつながっています。

### 【体力向上】

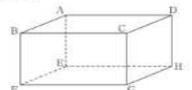
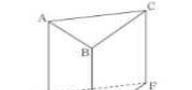
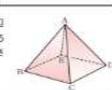
- F中学校区では、小・中学校合同で学校保健安全委員会を開催しました。各学校の体力向上における課題解決に向けた取組を紹介し合ったり、地域の方々からの意見を聞いたりしながら、小・中学校の9年間を通してどのように体力向上を図っていくかについて話し合い、体力向上に向けた意識を高めています。

### 【やまぐち学習支援プログラム】

- 多くの小・中学校で、やまぐち学習支援プログラム専用のプリントボックスを設置しているほか、全校体制で組織的・計画的に取り組んでいます。また、子どもが理解できるまで、繰り返し学習することで、学力向上につなげた学校が多くあります。
- G小学校では地域の方にやまぐちっ子学習プリントの採点をしてもらいいただき、子どもたちが安心して学習できる環境を整えています。

### やまぐち学習支援プログラムの中のやまぐちっ子学習プリント(県作成)

やまぐちっ子学習プリント 空間図形 ステップ1 月 日 ( )

中学校 1年数学	組 番 氏名
<p>問1) 次の直方体について、(1)、(2)の問いに答えなさい。</p>  <p>(1) 面CGHDと平行な辺がいくつありますか。そのうちの1つを書きなさい。</p> <input type="text"/> <p>(2) 辺CGに垂直な面がいくつありますか。そのうちの1つを書きなさい。</p> <input type="text"/> <p>問2) 下の図の三角柱について、次の(1)、(2)の問いに答えなさい。</p>  <p>(1) 辺ADとねじれの位置にある辺がいくつありますか。そのうちの1つを書きなさい。</p> <input type="text"/> <p>(2) 辺DFと平行な辺を書きなさい。</p> <input type="text"/>	<p>問3) 次の図のような、直方体から三角柱を切り取ってつくった立体があります。</p>  <p>次の(1)、(2)の問いに答えなさい。</p> <p>(1) この立体の辺を含む面について、下のAからEまでのの中から正しいものを1つ選びなさい。</p> <p>A. 面ABFと面DGHは交わる。          B. 面ABFと面CEGは交わる。          C. 面ABEと面DEFは交わる。          D. 面ABDと面DHCは交わる。</p> <input type="text"/> <p>(2) 辺BFと平行な辺がいくつありますか。何本あるか答えなさい。</p> <input type="text"/> <p>問4) 右の正四角錐で、辺BCとねじれの位置にある辺をすべて書きなさい。</p>  <input type="text"/> <p>問5) 右の三角柱について、面ABCに垂直な辺をすべて書きなさい。</p>  <input type="text"/>